

翠平戦誕生秘話（昭和29年）

昭和29年7月8日に第1回が行なわれ、昭和55年度の第25回まで続いた翠嵐・平沼体育対抗戦も、初年度は翠嵐時報の扱ひも小さく、7月1日に「対平沼戦」が開催の見通しとなったことが掲載される程度で、翌年の3月に発行された雑誌「翠嵐」でも校報と生徒会報告に数行の記載にとどまるなど、その立ち上げは地味なものだったようです。

その誕生秘話を昭和29年度の応援団長である高校7回小川吉一氏に伺うことができました。小川氏は、第1回翠平戦をはじめ、夏の野球大会などでも応援団長を務めた方です。小川氏は陸上部で1500m競走の選手として本校陸上競技部をリードしており、当時の翠嵐時報でも長距離選手としてのご活躍が度々記事に掲載されています。以下は、平成21年9月14日にかがわ県民活動サポートセンターにてインタビューして得られた内容です。

（小川氏の証言概要） 3年の時に、三ツ沢競技場で陸上部の練習をしていた際に同じように来ていた平沼の陸上部の1年生に冗談で対抗戦をやってみようかなあという話をしてみたところ、「それいいですね」と平沼の陸上部員も乗り気になり、意気投合した。学校に帰って北田先生に報告したところ、「それはいいなあ、やってみようか」と先生も乗り気になり「平沼に話しに行ってみる」ということであった。その後北田先生と河野先生が平沼に話しに行ったらしい。三ツ沢競技場で開会式をやることにして、競技会場を両校に振り分けた。三ツ沢競技場で女子10

0m競走と男子1500m競走を行い、翠嵐では柔道（会場となった本校の施設「控所」（当時）、バスケットボールやバレーボールなどの室内競技を体育館のあった平沼で行った。この当時、翠嵐には体育館がなかった。（小川氏は）陸上競技で走るつもりであったが、両校とも一般の生徒が出場するのに、陸上部の主力長距離選手が出場したのでは戦力が偏り過ぎて公平でないという理由でバスケットボールに回された。開会式のエール交換は、写真の旗（高校9回の卒業アルバムの応援部の集合写真）を会場に持って行って派手に行った。エール交換のやり方は前述の間宮氏から教わった。初めは、両校の陸上競技部だけで三ツ沢競技場のサブグラウンドを借りて対抗戦をやるうかというつもりで持ちかけた話だったが、結局両校全校参加の大きな体育対抗戦となった。

夏の野球応援に吹奏楽部が参入（昭和29年）

昭和29年の全国高校野球選手権神奈川大会には、同年6月27日に結成されたばかりの神奈川県吹奏楽連盟が初出場したことが7月11日付の朝日新聞神奈川版の記事の中で報じられています。開会式には同連盟所属9校（Y校・商工・武相・関東学院・翠嵐・開成・湘南・厚木・小田原）からなる1000人のブラスバンドが編成され、5曲演奏したと記されています。昭和30年3月1日発行の雑誌「翠嵐」27号（昭和29年度版）のクラブレポート欄のブラスバンド部の記事にも「7月には、県下高校野球の入場式の演奏にまた翠嵐の試合の応援にと部員は張り切っ